

富山県滑川市  
上小泉西遺跡発掘調査報告書

一個人住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

2017年3月

滑川市教育委員会

富山県滑川市  
上小泉西遺跡発掘調査報告書

—個人住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

2017年3月

滑川市教育委員会

## 序

滑川市は、富山県の中央からやや北東寄りに位置し、北西部で富山湾に面し、南東部には遙かに北アルプスの峰々を望むことができます。市域の大部分が立山連峰に発する早月川が形成した扇状地で構成される本市では、古くから時に自然の恩恵を受け、また自然の猛威にさらされながらも人々の生活が営まれていたことを、各時代の遺跡の存在から知ることができます。

今回、早月川扇状地扇端部にある上小泉西遺跡で、個人住宅建築に伴い、発掘調査を実施し、狭い面積ながらも古墳時代後期の人々の生活の痕跡を示す遺物が集中的に出土し、近年、住宅開発が盛んなこの地域が、当時から居住地として利用されていたことを確認することができました。

本書の刊行により、この貴重な遺跡の調査成果を記録に留め、資料として活用することにより、地域の歴史の解明と理解のための一助とできれば幸いです。

終わりに、本調査の実施にあたり、多大なご理解とご協力をいただきました土地所有者をはじめとした関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

滑川市教育委員会

教育長 伊 東 真

## 例　言

- 1 本書は、富山県滑川市上小泉地内に所在する上小泉西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、個人住宅建築に先立ち滑川市教育委員会が実施した。調査費用は滑川市教育委員会が負担し、県補助金の交付を受けた。
- 3 調査事務局は滑川市教育委員会生涯学習課に置き、滑川市立博物館主幹野末浩之が発掘調査及び調査事務を担当した。
- 4 調査期間及び面積は以下のとおりである。

試掘調査 平成 28 年 3 月 25 日 対象面積 327 m<sup>2</sup>

本調査 平成 28 年 6 月 15 日～22 日 調査面積 144 m<sup>2</sup>

- 5 調査にあたり、千秋嘉輝氏、アルスホーム株式会社、公益社団法人滑川市シルバー人材センターの協力を得た。発掘調査参加者は以下のとおりである。

稲崎 忍、白井 進、福田 恒

- 6 遺構実測図中の方位は真北を示し、水平水準は標高である。
- 7 土層の色名は、『新版標準土色図』2000 年版に準拠した。
- 8 出土遺物の整理、本書の執筆・編集は野末が行った。
- 9 調査に係る出土遺物及び図面・写真等の記録は、滑川市教育委員会が保管している。

## 目　次

序	挿図目次
例　言	上小泉西遺跡の位置と周辺の遺跡…………… 1
I　遺跡の位置と環境…………… 1	発掘調査地の位置…………… 2
II　調査に至る経緯…………… 2	調査区全体図…………… 3
III　調査の概要…………… 3	遺構平面図…………… 5
1　調査の方法…………… 3	遺構断面図…………… 5
2　層　序…………… 3	出土遺物実測図…………… 6
3　遺　構…………… 4	写真図版
4　遺　物…………… 5	上小泉西遺跡周辺航空写真…………… 7
IV　總　括…………… 5	調査前状況…………… 7
写真図版…………… 7	調査区全景…………… 8
報告書抄録…………… 12	遺構、遺物出土状況…………… 9
	出土遺物（1）…………… 10
	出土遺物（2）…………… 11

## I 遺跡の位置と環境

滑川市は、北西部が富山湾に面する侵食の激しい海岸で、南東部は北アルプスを背景とした丘陵部となっている。市域は北アルプスに源流をもつ北東部の早月川、南西部の上市川の両河川に挟まれ、ほとんどの地域は早月川が形成した扇状地からなっている。滑川市街地の郊外で豊かな田園地帯が広がる緩やかな傾斜地は早月川新扇状地で、約5万年前の新生代第四紀更新世末期に形成されたものである。県内でも有数の急流河川である早月川は、氾濫により扇状地内に厚い疊層をつくりあげている。江戸期までは氾濫による洪水被害も繰り返されてきた。そのため扇状地上に周知の埋蔵文化財包蔵地は極めて少ない状況である。

早月川新扇状地の扇端部分に位置し、近年開発が進むこの地域は、埋蔵文化財の分布調査があまり進んでいないが、開発計画に伴い、少しずつ遺跡の存在が明らかになってきている。平成9年度には、今回の調査区の西25mの地点で共同住宅建設工事中に排土中から遺物が発見されたため、緊急試掘調査を実施している。上小泉西遺跡はこの時新たに発見されたもので、既に工事が進んでいたため、トレンチ調査では遺構は発見されなかったが、開発地の一部に僅かに炭化物を含む黒色粘土の遺物包含層が残存しており、石組炉とみられる遺構を確認するとともに、古墳時代中～後期の須恵器高杯や土師器甕・高杯・壺・椀を探集した。微地形的にみれば、当地は早月川新扇状地上を流れる幾筋もの支流のうちの一つである伝五郎川の左岸の微高地にあたり、約500m北は自然湧水地帯で、約500m南西の地点は沼田だったといわれ、自然地形的にも集落にとっての適地であったと思われる。当地の北東には、祇園町に由来するとも伝えられる行田の名を冠した公園があり、滑川市から上市町にかけて展開した中世堀江荘を経営した祇園社と関連する遺跡が付近に発見される可能性もある。



第1図 上小泉西遺跡の位置と周辺の遺跡(1/50000)

1 上小泉西遺跡(古墳・中世) 2 下島遺跡(古墳～近世) 3 魚網遺跡(弥生～近世) 4 常盤町遺跡(绳文・中世) 5 中川原遺跡(弥生) 6 江尻遺跡(古代・中世) 7 上梅沢遺跡(弥生～近世) 8 上梅沢館跡(中世) 9 有金館跡(中世) 10 堀江城跡(中世) 11 安田下水遺跡(绳文・古代) 12 安田古宮遺跡(绳文) 13 東金属製鉄場跡(近世) 14 森野新館跡(中世) 15 水橋孤塚遺跡(绳文・古墳・古代～近世) 16 水橋恋歌塚跡(古代・中世) 17 小出城跡(绳文～近世) 18 水橋小出遺跡(绳文・弥生・古代・中世)

## II 調査に至る経緯

平成 28 年 1 月に滑川市上小泉地内で個人住宅建築計画のため、取扱事業者から滑川市教育委員会へ埋蔵文化財包蔵地の確認依頼があった。計画は周知の上小泉西遺跡内における工事であるため、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために資料を得るため、試掘調査を行う必要がある旨の説明をした上で、取扱いについて協議を行った。その結果、土地所有者の承諾を得て試掘調査を実施することで合意し、文化財保護法の規定により、平成 28 年 2 月 18 日付けで埋蔵文化財発掘の届出が本教育委員会まで提出された。これを受けた市教育委員会は、市が主体となって試掘調査を行う旨の削申を県教育委員会まで提出した。県教育委員会からは、平成 28 年 3 月 3 日付け生学第 2316 号文書により発掘届出者（開発行為者）あて、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知が出された。試掘調査は、平成 28 年 3 月 25 日に実施した。調査対象面積は 327 m<sup>2</sup>で、対象地内に 2 本のトレンチを設定して遺構及び遺物の精査、記録を行った。その結果、溝跡 3 条及び隅丸方形になると思われる竪穴造構並びに占墳時代の土師器甕・壺・土製支脚が出土した。遺構はいずれも表土（耕作土）の直下から出土しており、表土を除去するとすぐに遺構が出土するような状況であった。耕作により破壊される恐れが高いこのような浅い位置にもかかわらず、遺物も原位置をとどめており、良好な状態で遺跡が遺存していることが判明した。住宅建築に際しては、この遺跡を毀損することは免ないと判断された。このため、再度事業者と協議を行い、住宅建築部分について本発掘調査を実施することとなった。

本調査は、滑川市教育委員会が富山県文化財保存整備費補助金の交付を受けて実施することとし、準備段階を経て平成 28 年 6 月に現地調査を行った。



第 2 図 発掘調査地の位置(1/2500)

### III 調査の概要

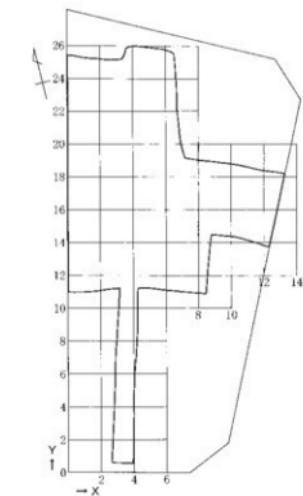
#### 1 調査の方法

試掘調査結果を受けて、住宅建築部分における遺構・遺物の広がりを確認することとした。遺構が浅い位置で出土しているため、表土は慎重に確認しながらバックホーを使用して除去した。その後、人力により遺構・遺物の精査を行った。開発地の南西隅の境界を基点に $2m \times 2m$ のグリッド杭を設置し、東西をX軸、南北をY軸に設定し、遺構・遺物の掘削及び図化作業を行った。

#### 2 層序

調査前の状況は畠地となっており、遺跡埋没までの層位は、基本的に20~25cmの表土（耕作土）とその直下の黄灰色砂層の2層で、黄灰色砂層上面から遺構が掘り込まれ、黒色土もしくは黒色土にブロック状の灰白色土が混じった土層によって遺構が充填されていた。遺物は黒色土層から出土している。

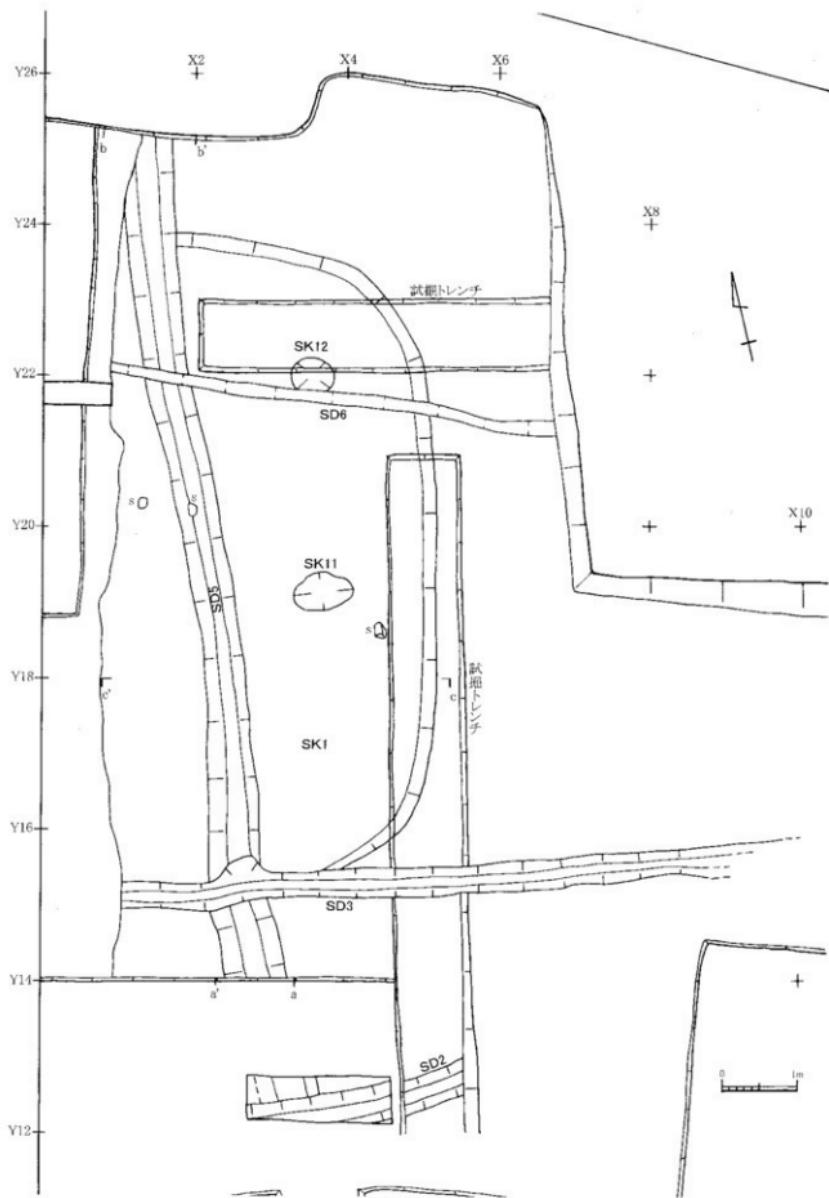
#### 3 遺構（第4図）



第3図 調査区全体図(1/300)

試掘調査の際に、隅丸方形とみられる竪穴状の遺構及び溝3条が検出された。本調査でこれらの遺構の広がりを追った。竪穴状遺構（SK1）は遺構の平面形が古墳時代の一般的な竪穴建物のように角ばっておらず、内部の土坑（SK11・SK12）についても明確な柱穴の形態をなしていないことから、竪穴状遺構とした。南北の長さ約8.8mとなるが、東西方向の規模は西側が畦畔の境界となるコンクリート擁壁の掘方で切られ確認することはできなかった。SK1 南東隅のX4Y18地点では、遺構底面から壺3個体、小型甕、壺、瓶2個体、土製支脚が集中的に出土した。竪穴建物の竪遺構の存在を思わせるような出土状況であったが、精査したが竪の存在は認められず、また周辺に焼土も存在しなかった。また、遺構内では15~25cm大の河原石が10数個出土している。SK1は南北方向を中心とした溝5（SD5）で切られている。SD5は幅50~80cmで、埋土から珠洲及び中世土師器や割石が出土している。溝3（SD3）は幅約30cmの東西方向の溝で、SK1南端部とSD5を切っている。SD3の南1.5mにも並行する幅約50cmの溝2（SD2）が検出された。図示していないが、試掘トレレンチ及び本調査での遺構確認のため南方へ伸ばしたトレレンチ部の南端にも、溝になると思われる掘方を検出した。このSD1の幅は不明であるが、埋土上層より高杯形土器を含む土師器片が出土した。その他、幅約20cmの深い溝6（SD6）があるが、近現代のものであろう。

以上の遺構はいずれも耕作土のすぐ下にあり、表土を除去すると非常に浅い位置で遺物が出土するような状況であった。



第4図 造構平面図(1/60)

#### 4 遺物 (第6図)

図化した出土遺物は縄文時代(16)のものと古墳時代後期(1~12)、中世(13~15)のものがある。1~5は土師器甕である。3個体分とみられ、3・4は同一個体で5は1または2の底部である。いずれもくの字状の口縁部で、それぞれ胴部の張り方が異なる。6は小型の甕で内底面までハケ調整している。7は土師器壺で、粗い作りであり外面には煤も付着する。図化できないが、口縁部は小片のみ出土した。8・9は土師器瓶で角状の把手が付くものと、把手が付かないものがある。ハケ調整もそれぞれ異なる。10・11は土師器高杯脚部である。10はSD1埋土から、11はX2Y18地点からの出土である。いずれも摩滅が著しい。12は土製支脚で、長さは不明ながら他に同径で高さ約1cmの端部片もあり、円柱状の形態をなす。13は侏洲甕で腰部片。14・15は土師器小皿でともに口縁部を回転ナデ調整している。16は無茎回基式の石鏸で、オリーブ色から褐色を呈するチャート系の石材と思われるが石英を斑状に含んでいる。長さ2.11cm、幅1.63cm、重さ1.6gを測る。X10Y18地点の遺構検出面から出土した。

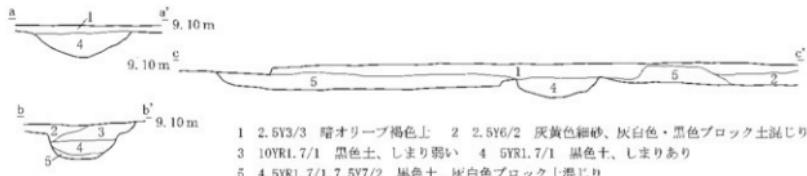
古墳時代の遺物のうち10・11以外はいずれもX4Y18地点から一括で出土したものである。中世の遺物はSD5の埋土から出土した。

## IV 総括

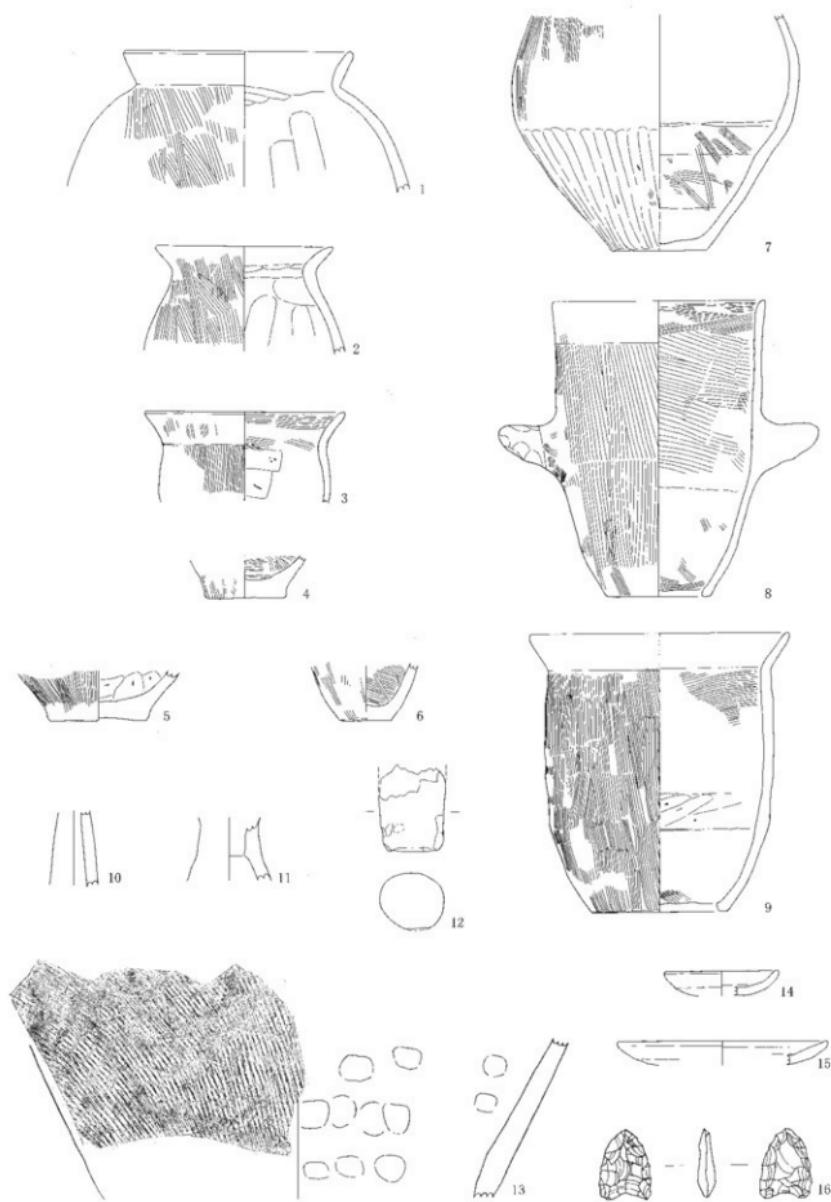
今回調査地内での一連の調査では、古墳時代後期の甕・壺・瓶・土製支脚がセットで出土し、竈を使用した堅穴建物での生活を彷彿とさせるような状態であった。ただし、出土した遺構が明確な堅穴建物とは認められないため、今回の堅穴状遺構とこれらの遺物が関係するのかは、現時点では不明といわざるを得ないが、竈や焼土も発見されていないため、この遺構に二次的に集積されたものである可能性が考えられる。いずれにしても、伝五郎川左岸の微高地である当地周辺には古墳時代の集落が存在したものとみられ、周辺の未調査地にはまだ遺構や遺物が良好に保存されている可能性が高いものと考えられる。また、新たに中世の遺構も発見されたことから、中世における上小泉西遺跡の実態についても新たな資料を得るものとなった。

### 参考文献

- 野末浩之 1998「上小泉西遺跡」『平成9年度滑川市埋蔵文化財発掘調査概報』滑川市教育委員会  
山本正敏他 1998『五社遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所  
野末浩之 1999「上小泉西遺跡」『平成10年度滑川市埋蔵文化財発掘調査概報』滑川市教育委員会  
高橋浩二 2009「古墳時代の越中」『古代の越中』高志書院  
青山晃 2013「上梅沢遺跡」『上梅沢遺跡・水橋金広・中馬場遺跡・新堀西遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所



第5図 遺構断面図(1/40)



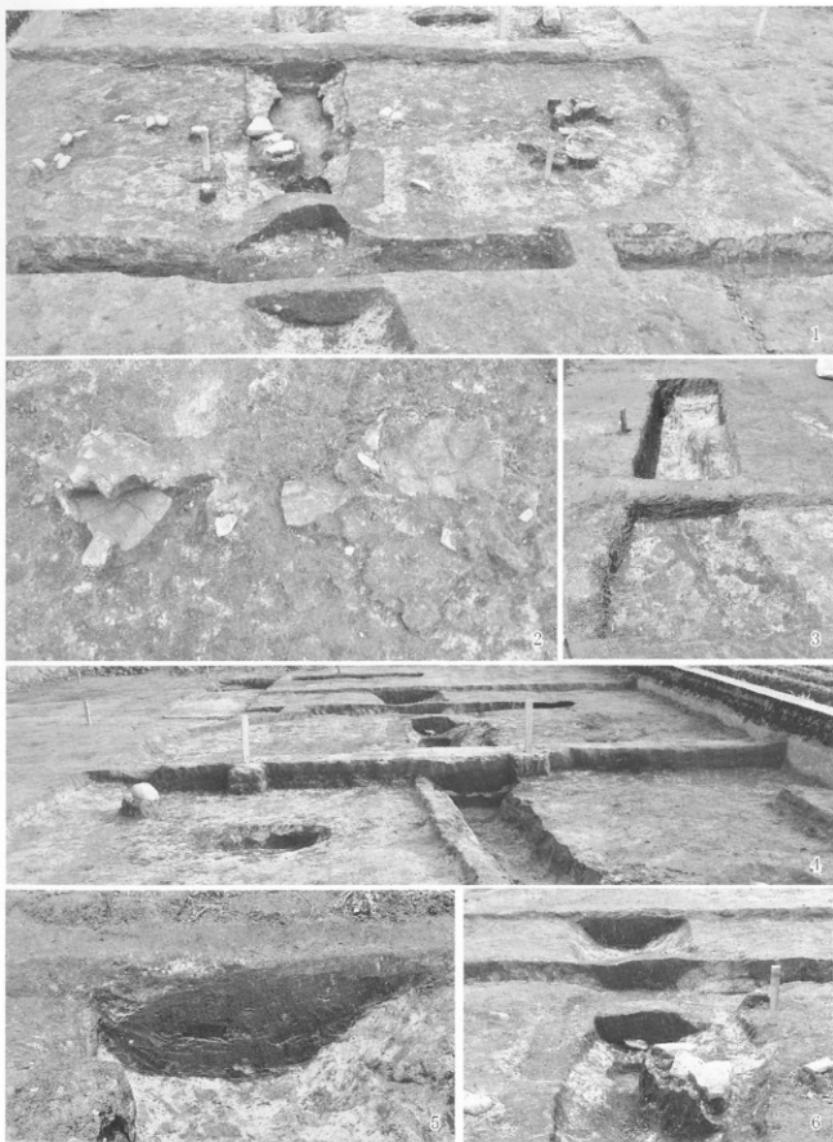
第6図 出土遺物実測図(1~15 1/4、16 2/3)



図版1 1 上小泉西遺跡周辺航空写真(平成19年) 2 調査前状況(南から)



図版 2 1 調査区全景(北から) 2 壊穴状遺構及び溝 3・5(南から)



図版3 1 壴穴状遺構内遺物出土状況(南から) 2 壺・瓶出土状況 3 溝2(東から) 4 崴穴状遺構土層  
(北から) 5 溝5北端部土層(南から) 6 溝5南端部土層及び遺物出土状況(北から)



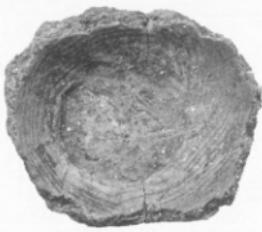
1



2



3



4

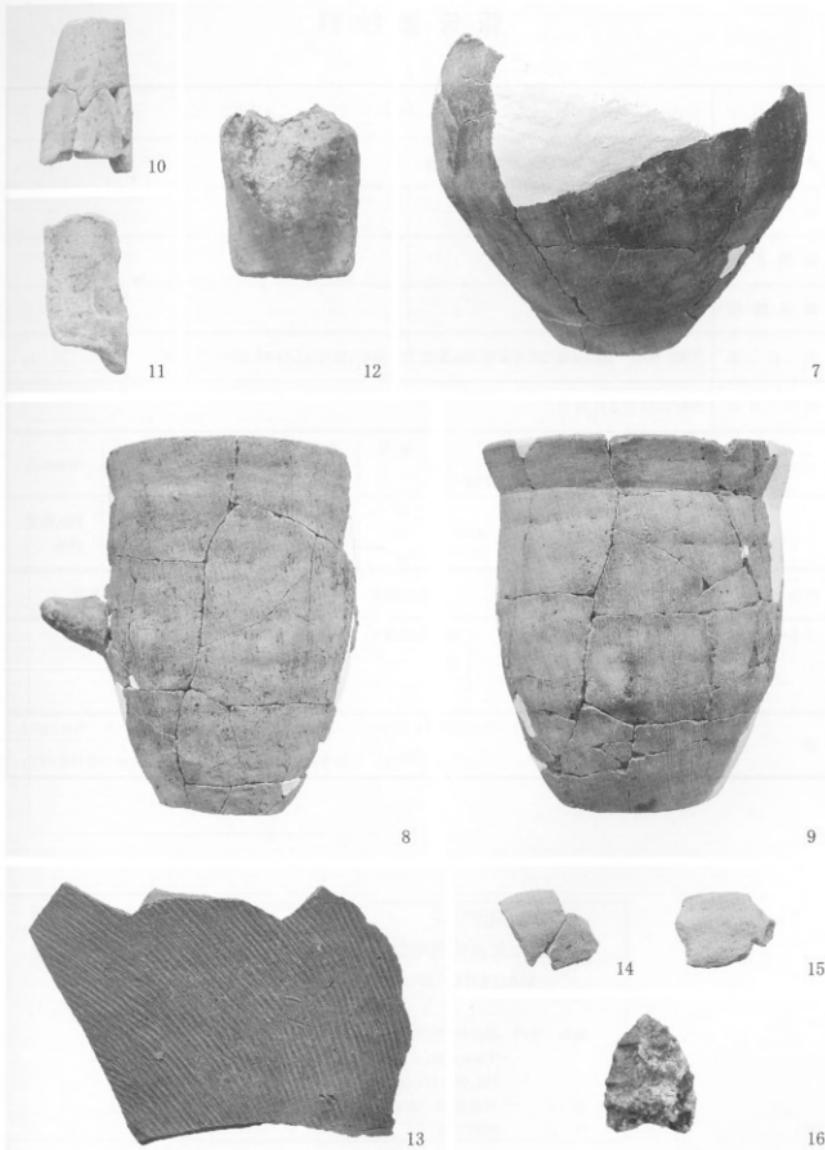


5



6

图版 4 出土遗物(1) 土师器



図版5 出土遺物(2) 土師器・土製品・珠器・石器

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけんなんめりかわしかみこいぢみにしいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	富山県滑川市上小泉西遺跡発掘調査報告書							
副書名	個人住宅建築に係る埋蔵文化財調査							
編著者名	野木浩之							
編集機関	滑川市教育委員会							
所在地	〒936-8601 富山県滑川市寺家町104番地 TEL.076-475-2111/FAX 076-475-9320							
発行年月日	西暦 2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○○°○○'	東経 ○○°○○'	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因
上小泉西遺跡	トヤマケン 富山県 なめりかわしあみこいぢみ 滑川市上 小泉	市町村 16206	遺跡番号 206055	36° 45' 20"	137° 20' 58"	20160615～ 20160622	144	個人住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
上小泉西遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 中世	溝	竪穴状遺構 石鐵、土師器、土 製品、珠洲、中世 十師器				
要約	古墳時代後期の竪穴状遺構と土師器煮炊具等のセットが出土し、集落の存在が推定された。中世の溝も出土して中世の遺構も残存していることが判明し、今後当遺跡の性格を明らかにするための資料を得た。							

富山県滑川市  
上小泉西遺跡発掘調査報告書  
—個人住宅建築に係る埋蔵文化財調査—

編集・発行 滑川市教育委員会  
〒936-8601 富山県滑川市寺家町104番地  
TEL.076-475-2111/FAX 076-475-9320  
発行日 平成29年(2017)3月31日  
印刷 飯坂印刷

